ぶらっと半田　　2007.9.29

知多半島最大の村だった「成岩」の散策

半田市観光ガイド協会の主催する、ふるさと散歩に妻と一緒に参加した。９月２９日青山記念武道館に8.50集合、9.00～12.00の予定で武道館---常楽寺---とりで観音---抱き地蔵---武道館と回る。

1 初めての武道館に迷う

事前に地図で調べて場所は分かっていたものの、入り口が分からずに間違えてしまった。隣接のグランドでは子供たちがサッカーに興じていた。この頃雨がポツリポツリと落ちてきた。大きな体育館とグランドを併せ持つ立派な施設である。それをぐるりと回ってきたこともあって、時間に１分ほど遅れてしまい、丁度説明が始まったところだった。
杉江さんというガイドの方が話をしていたが、この方に見覚えがあった。杉江という名前は確か、トヨタ車体で私が最初に配属された工機部で一緒だった先輩の杉江さんでは------でもこの時はちょっと自信がなかった。
ぐるりと見回すと知った顔が一人いた、友の作品「半田十話(とわ)物語」の挿絵の協力をしていただいた、新美昇さんだ。背が高いのですぐ分かった、新美さんも気がつきその場で互いに会釈した。その後杉江さんの方からグループ分けの指示があり、私は担当ガイド大平さんのＡ組になった。名簿では５名だったが実際には７名いた。
他には杉江さんと２人のガイドの方がおり、４組に分かれてスタートした。

2 徳川家康が３回来た「常楽寺」

体育館隣を流れる神戸川に沿って少し歩くと、桜の苗木が植えられている。１０年もすれば桜の並木が続く川沿いの道は、市民の憩いの場になることであろう。川をのぞくと鮒らしい魚も多く見られた、川を渡って大通りから裏通りに入ると、あちこちにマンションが建っている。
写真を撮りながら、話を聞きながら時にはメモをとりながら進むと行者堂があった。大峰山の旗があり役行者を祀るものと分かる。でも、はっきりした説明が聞けなかったのでよく分からない。大平さんはやさしい声なのでちょっと聞き取りにくいのだ。また、いただいた資料にも記載はなかった。
次は常楽寺の西にある土塀へ来た、そこには石垣が組まれていた。その中に一つ変わった形の石があった。柱を立てる時の基礎に使う石で仏性寺の礎石といわれている。そこからぐるりと回ると常楽寺の山門前に来る、土塀に沿って広

い駐車場があり鐘楼や山門は大きく立派なものだった。そして、広場の端には山車蔵があった。でも組の名前は忘れてしまった。

仏性寺の敷石

常楽寺の山門

仏性寺の敷石

仏性寺は「成岩町史」や「旧市誌」に伝承として記述されているが、その実在を証明する記録、遺物などは発見されていないという。明治初年のころ西成岩区の古文書に仏性寺がでてくるが、それがどこなのか定かではない。文明１６年(1484)浄土宗常楽寺に引き継がれるまで約７００年間護持されてきた。西薬師寺を移動した際に、旧敷地から数個の自然礎石が出土しこれが仏性寺の遺構と考えられている。

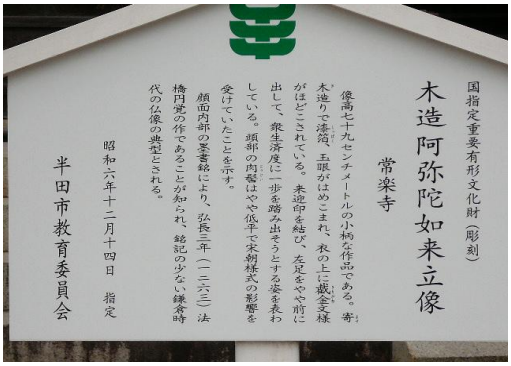
ご本尊は重要文化財の阿弥陀如来

昭和６年国宝に指定された来迎木立像には「弘長３年７月法橋円覚作」の銘がある(現在は法改正により重文)。来迎の印を結んだ弥陀立像にして、鎌倉期において好んで作られた。

徳川家康と いとこの間柄

当山第八世典空顕朗上人は徳川家康といとこの間柄だったので、家康は桶狭間の合戦、本能寺の変、と上洛した天正１７年の三度、常楽寺に立ち寄っている。そしてご朱印寺領５８石３斗余を与えている。寺の宝物には家康拝領の鞍、鐙、鶴亀茶碗などが残されている。

本堂に上がり裏から回って阿弥陀如来立像を真下から拝見した、やさしいお顔で左足を少し前に出した姿で立っている。これは今まさに救いの手を差し伸べようとされているのだとか。本堂の柱はとても大きな円柱で、木目がとても美しい。1本で1億円する代物とも言われる。広くて立派な本堂の装飾はすばらしい、且つ天井はこれまた素晴らしく格子状になっている。



常楽寺本堂とご本尊の説明

40 年ぶりの再会

見学を終って本堂から出ると、ガイドの杉江さんが他の人と話をしているのに出会った。その顔を見て、間違いなく先輩の杉江さんと確信した。思い切って声をかけると、杉江さんも参加者の名前を見て珍しい苗字なのでたぶんそうだろうと思っていたという。思いも寄らぬ出会いに感激した、かれこれ 40 年ぶりの再会がとても嬉しかった。

寺子屋教育の初め

半田市域では寛永(1624)以後、明治までに 53 の寺子屋が開設された。最も古くはこの成岩常楽寺の碧空源周上人により、寛永年間に開かれた寺子屋が知られている。ほとんどの寺子屋は、読み書きが中心でいろは、数字、村名といった生活や仕事に関係が深い文字を練習しながら、午前 8 時から午後 4 時頃まで勉強したようです。

寺子屋の規模は、師匠一人に寺子 30～50 人が多かった、これらの寺子も中産階級の子弟、しかも男児がほとんど。それ以下の者や女子にはこうした教育の機会には恵まれなかった。対象は 7 歳か 8 歳より 3 年から 5 年間だった。江戸時代の中頃から、農民や町人の子供たちにも勉強させようと考える人が多くなり、寺子屋の数もぐっと増えました。成岩と板山には、このような寺子屋が 19 ありました。

3 市文化財一号に指定された「薬師如来坐像」

常楽寺山門前に薬師堂がある、地元では「お御堂」と呼ばれています。昭和 42 年にこの地に移転した。ここには三体の仏様があり、薬師如来坐像(本尊)は藤原時代(866～1191)中期の作で昭和 41 年 3 月、市文化財第一号に指定された。そして、大日如来坐像と聖観世音菩薩立像が並び、ともに市文化財に指定されています。

4 代官所があった成岩

薬師堂から少し行った所にちょっとした広っぱがある。その角には庚申堂が建っていたが、実はここには知多郡で一番大きな村といわれる成岩村の代官所があったという。

天下分け目の関が原の戦いも終わり、徳川家康が全国を支配するようになった慶長 6 年(1601)に成岩に代官所が置かれた。しかし、慶長 12 年(1607)に徳川義直が尾張藩の殿様になると、成岩村の代官所はなくなってしまいました。その後成岩村は尾張藩家老である成瀬氏の支配を受けました。

代官所跡に建つ庚申堂

珍しいトレーラーハウス

5 「おかんのんさん」と呼ばれる とりで観音

代官所跡を通り名鉄河和線を渡って行くと、珍しい家が数件目に付いた。誰かがトレーラーハウスというのが聞こえた。よく見ると確かに高床式の建物の下には車輪が見えた。ガスはプロパンガスが見えたし電柱もそばにあった。でも水道は同じように施設してあるのかな? 移動することが可能であってもライフラインの確保を考えると必要がないように思われるのだが-----。
その先にはちょっとした森があったので、そこが鳥出観音かと思ったら、そうではなく更に進んで右折した所に旗が見えてきた。
大きな通りに面して石垣が続き、のぼり旗と石段があった。そこを登りきると山門があり、本堂まで「とりでかんのん」と記した紫色の旗がびっしりと並んでいた。

とりで観音の名称

ここは常楽寺の前身仏性寺の観音堂を、慶長元年に信者の懇請によってここに移されたという。とりで観音の名称は、この地に成岩城があって城主は榎本了園といった。この頃緒川城主水野氏との間で戦があった。この戦は水野氏の勝利に終ったが、このとき水野勢の砦がこの丘に築かれたところから、この地

を「とりで山」と呼ぶようになった。その丘に観音堂が建ったので「とりでかんのん」の名が生まれた。

とりで観音

仏性寺の文字がある廟搭

仏像と灯篭?

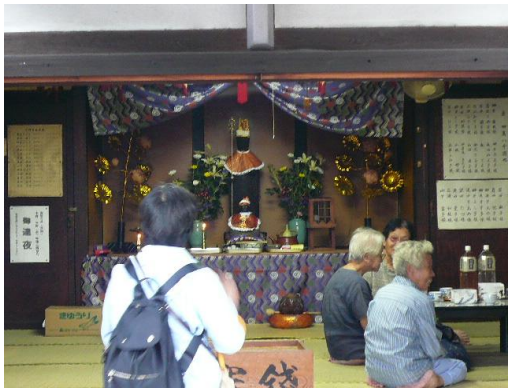
ご本尊は十一面観世音菩薩、藤原時代の作で保存状態もよく市の文化財に指定されている。ほかに地蔵菩薩、三十三観音像、大釈迦如来像、役の行者像、子安地蔵が祀られている。ご本尊は元禄 8 年に大干ばつがあって、成岩輪中より雨乞いをして大いに効果があった。その時のお礼に奉納された絵馬が残されており、これは半田市に現存する最も古い絵馬という。また、享保時代に疫病流行の時、功あって報恩のため七観音が建てられ今も祀られている。
そして、庭の隅に石灯篭(廟搭)があり、これには仏性寺の文字が見え、「仏性寺開山 行基菩薩 天平 20 年(748)2 月 20 日」と刻まれている。この灯篭は成岩橋北詰にあった、共同墓地内にあったものを大正時代に移した。建立者は山口正伯氏と言われているという。

6 成岩が浜海水浴場と抱き地蔵

とりで観音を出て神戸川まで行き、少し下ると成岩幼稚園がある。半田市の幼稚園は明治 35 年 10 月に亀崎幼稚園が、続いて明治 39 年に私立半田幼稚園が開園されたのが始まりという。そして、信号機のある交差点で道路の右側に渡ってすぐ神戸川を渡る。下のほうにはいくつかのテントが見えた、昔は抱き地蔵の命日には見せもの小屋や、屋台が神戸川堤にぎっしり並んで多くの人でにぎわったという。更に、この神戸川の河口には海水浴場があり、昭和 15 年、16 年頃は河和口と成岩が浜が多くの人を集めていたという。ほんとかいなと思ったが、大平さんが当時の写真を見せてくれたので初めて納得できた。
川沿いに少し上ると「神車」と大きな文字が書かれた山車蔵がある。これは以前から知っていたのだが、その隣が抱き地蔵だった。

この地蔵さんの歴史はまたおもしろいのだ、なぜかというと川から拾ってきたという。昔、神戸川北岸の墓地に古くから千体地蔵というのが安置されていてその中央に大きさ一尺余の坐像の地蔵尊が祀られていた。ところが明治維新後どこかえ姿が消えてしまった。廃仏毀釈のため神戸川へ投げ込んだという説もあった。その後明治 38 年川で砂利を採っていた人がみつけ祀っていたが、後に榊原清左衛門氏の努力によって明治 45 年今の地に祀られた。

そんな運命をたどった抱き地蔵は、お年寄りたちの手で今も大切に守られて多くの人がお参りにくる。お願い事をして抱き地蔵を持ち上げると、願いがかなう時には持ち上がり、かなわない時は持ち上がらないのだという。一度試してみたいものだ!! そんな思いで抱き地蔵をあとにした。


抱き地蔵

抱き地蔵隣の山車蔵

このあと名鉄青山駅へ出た、ここでは鉄道の歴史を知ることに。明治 19 年に官営鉄道の熱田～武豊が県下で最初の鉄道として開通。明治 45 年に伝馬町～大野町が開通。昭和になって半田地区の有力者(中埜半左衛門、小栗四郎、中埜半六榊原伊助)が中心となって知多電気鉄道が設立され、昭和 6 年太田川～成岩が開通した。昭和 23 年になって路線名を河和線とした。

そして昔の名が残る長泥の道を通って体育館へ戻った、歩数計は 9.900 歩だった。